

川崎陸送 北東北向け薬剤の中継輸送を拡大 自社車両の長距離運行を削減

川崎陸送(本社・東京都港区、樋口恵一社長)は、茨城県五霞町のクリタ・ケミカル製造から北東北のユーザー向けの薬剤輸送で中継輸送を拡大した。

岩手県の協力会社の営業所に中継拠点を設置し、「幹線輸送」と移液作業を含む「納品」を分離。青森、秋田、岩手の北東北3県における移液作業付きの納品をすべて協力会社側でカバーできるように、川崎陸送の自社車両の長距離運行を削減した。移液作業など特殊な納品形態で中継輸送を導入する例は珍しい。

薬剤をローリーや1tコンテナで納品する場合は、納品先構内のタンクに移し替える、「移液作業」を伴うことがある。栗田工業の物流を担う川崎陸送では従来、1人のドライバーが製品および移液作業に必要な機材の積み込みと検品、幹線輸送(往路)、納品および移液作

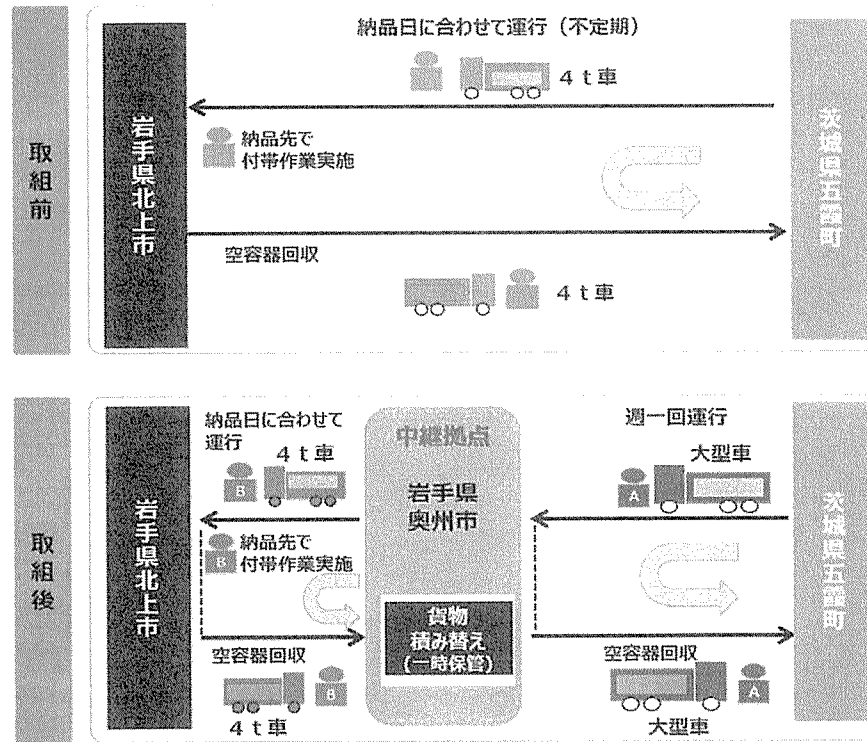
社の奥州市の営業所を中継拠点として活用し、昨年からは岩手県内の特定ユーザーへの1tコンテナによる8種類の薬剤の納品について中継輸送を開始した。

当初、中継輸送の対象は岩手県内のユーザー1社の移液作業付き納品に限定されていたが、現在は青森、秋田、岩手の北東北3県の移液作業付きの納品について、協力会社のドライバー

業、幹線輸送(復路)、営業所帰庫後のポンプ等の洗浄まで全工程を担い、北東北向けは2〜3日かかるの運行となっていた

た。

中継輸送を検討するにあたって、協力会社に移液作業に必要な機材(ミニコンプレッサー、ミニバッテリー、ハンディポンプ)を供与し、同社のドライバーに移液作業の技術を指導を行った。協力会社のドライバーが移液作業を習得したうえで、同



中継輸送のスキーム(北上市のユーザー向けの例)

がほぼ対応できるようになった。さらに、移液作業がなくても、直接、自社車両が納品している3県の納品先も組み入れ始めたことで、中継輸送が合計11ユーザー・34種の薬剤に拡大し、長距離運行の回数削減につながった。

なお、移液作業は1tコンテナ1基あたり30〜40分程度要する。従来は、ドライバーが幹線

輸送から車庫に戻った後、ポンプ洗浄の際に順番待ちが発生することもあり、拘束時間が長くなりがちだった。中継輸送のスキームを導入し、幹線輸送から納品と移液作業が分離されたことで、拘束時間を短縮でき、移液作業を習得していないドライバーでも幹線輸送に従事できるようになる。